

水害の原因 被害状況 体験談

2025 (令和 7) 年 9 月 17 日、11 月 4 日の鍛冶屋町自治会館での聞き取り調査に基づき作成
※その他の参考文献：地券取調総絵図 近江国浅井郡第二区鍛冶屋村、ゼンリンの住宅地図 東浅井郡 [71]、長浜市住宅案内図 [77]



被害概要 1959 (昭和 34) 年 伊勢湾台風

伊勢湾台風当時の草野川の様子

- 伊勢湾台風当時、草野川の川幅は現在よりも狭く、瀬と淵のみられる小川であった (図中の赤点線が現在の草野川の護岸である)。

伊勢湾台風の雨の様子

- 9 月 26 日の昼頃から雨が降り始め、18 時～21 時頃にピークを迎えた。草野川とその支流 (嶺上谷川・指南谷川) の増水により、草野川両岸に浸水被害が発生し、27 日の早朝まで続いた。

橋の流出

- 草野川では上流から橋が流失し、鍛冶屋町では鍛冶屋橋と嵯峨山橋が順に流失した。

水害の原因 1 草野川両岸の沿岸

降雨による草野川の増水

- 豪雨により、草野川の水位が上昇し、草野川両岸の沿岸が浸水した。

鍛冶屋橋の閉塞による草野川の溢水

- 上流から流れてきた流木が、鍛冶屋橋の左岸側の橋脚に引っ掛かった。
- 流木により、川が堰き止められ、草野川の水位が上昇した。
- 川の水があふれ、鍛冶屋橋上流の右岸側に氾濫した。
- 水の勢いに耐えられず、鍛冶屋橋が流出した。(写真 1)

図 1 鍛冶屋橋の被害イメージ

図 1 は、鍛冶屋橋の被害イメージを示す断面図。左岸側と右岸側の水位差が示され、右岸側に氾濫している様子が描かれている。

写真 1 被災後の鍛冶屋橋 (左岸側から撮影)

写真 1 は、鍛冶屋橋の被害状況を撮影した写真。橋の左岸側から撮影されており、橋の構造や周囲の状況が確認できる。

嵯峨山橋の閉塞による草野川の溢水

- 上流から流れてきた流木が、嵯峨山橋の左岸側の桁下に引っ掛かった。
- 左岸側の桁下がふさがれたことにより、草野川の水位が再び上昇し、川の水の流れがすべて右岸側の桁下に集中した。
- 水の勢いに耐えられず、右岸側の護岸が削られ、侵食された。

図 2 嵯峨山橋の被害イメージ

図 2 は、嵯峨山橋の被害イメージを示す断面図。左岸側と右岸側の水位差が示され、右岸側に氾濫している様子が描かれている。

写真 2 被災後の嵯峨山橋 (右岸側から撮影)

写真 2 は、嵯峨山橋の被害状況を撮影した写真。橋の右岸側から撮影されており、橋の構造や周囲の状況が確認できる。



復旧事業

草野川復旧事業

- 伊勢湾台風の被害を受け、草野川の復旧工事が道路改良と合わせて実施された。
- 『滋賀年鑑』(滋賀県、1965) には、草野川の災害復旧工事が 1964 (昭和 39) 年 3 月までに完了予定、と書かれている。
- 『草野川と共に』(浅井町役場、1964) によると、鍛冶屋町周辺では、被災前に 15～20m であった草野川の川幅が、改修により 35m ほどに拡幅されたという。
- この草野川の拡幅に伴い、鍛冶屋町では右岸側の 5 軒の家が転居した。

谷川の土砂流出

- 伊勢湾台風後も依然として谷川の土砂流出のおそれがあったため、住民自ら、谷川の護岸をコンクリートで固めた。
- 伊勢湾台風後、1961 (昭和 36) 年までに、谷川の上流に砂防堰堤が建設された。

バイパス工事

- その後、1980 (昭和 55) 年に右岸沿いにバイパスが敷設された。これに伴い、2 軒の家が転居した。

体験談 山地からの水の流出で被災した B さんの体験談

- 自宅に浸水の危険が迫ったため、玄関にタンスや長持を出した。
- 停電していたため、仏壇からろうそくを出した。

被害状況

鍛冶屋橋左岸 下流の護岸

- 草野川の勢いにより、鍛冶屋橋左岸の下流部にあった宅地が侵食された。
- 草野酒造の酒蔵が流失した。

写真 3 鍛冶屋橋下流左岸の護岸侵食被害の様子

写真 3 は、鍛冶屋橋下流左岸の護岸侵食被害の様子を撮影した写真。護岸の崩壊や宅地の流失が確認できる。

被害状況

嵯峨山橋左岸 下流の護岸

- 護岸が石積みではなく土手であったため、侵食されてしまい、護岸沿いにあった道路が流失して通行不可能となった。

写真 4 県道 264 号の護岸侵食被害の様子

写真 4 は、県道 264 号の護岸侵食被害の様子を撮影した写真。護岸の崩壊や道路の流失が確認できる。

